



サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

人工知能AIは私たちに挑戦を投げかけます。

模範となるべき存在である大人のうちに拠りどころを探し求める若者たちに、私たちは特にサレジアンとして、ますます心を配り、近づきやすい存在となるよう呼ばれています。そのような大人が不在のとき、若者は、助言をもらいなくさめてもらえるチャットGPTに迷うことなく助けを求めるでしょう。しかし、本物の人間との間でしか経験できない関わりは、そこでは見いだせないのです。人工知能がますます大きな位置を占めるようになっていく世界で私たちは、家庭、教会、運動場を、若者が集まれるオアシスへと変容させなければなりません。耳を傾け、その年齢に特有な挑戦に立ち向かうのを助けてくれる教育者を、若者が見いだせるオアシスへと。イエスの足跡を、ドン・ボスコのやり方でたどり続けましょう、まことの知性をもって教育し福音化しながら、深く人間らしくあることによって。

Pedro Andre

■ANSディレクター
ペドロ・アンドレ神父, SDB

ケニア、コルの牧畜を営む人々と共に、 水を守る



ケニア、マルサビト州の乾燥した大地では、わずかな水資源を大切にすることは、共同体が生きてゆくための生命線になります。砂漠地帯は厳しい干ばつや、年平均でわずか190から205ミリの不規則な降雨、激しい蒸発散に見舞われます。通常の水はすぐに涸れてしまい、半遊牧の牧畜を営む家族と家畜は**破壊的な気候がもたらす衝撃にさらされる**ことになります。地下水の利用も容易ではありません：水を汲み上げる縦穴の掘削費用は高額で、しばしば水量は限られ、その水は塩分を含んでいます。したがって、ここでは、短い雨季に地表を流れる水をダム構造によって集めることが、いのちを支える唯一可能な方法となっており、そのためには**革新的な土木工学と念入りな水保全の戦略が必要**です。

私たちドン・ボスコのサレジオ会のような人道活動を行う組織は、これまでは、支援者と提携し、牧畜を営む人々のためにボーリング孔を掘ってきました。今後は、ふだん涸れている季節性の川にダムを築くことによって、洪水の時にどれほど水を溜められるか、専門家による査定を行う必要があります。バラ川沿岸の調査により、散発的に訪れる雨季の短期的な雨水を、アースダムによって効果的に溜められることがわかりました。資金次第で、小さいものから大きいものまで設計される貯水池は、**蒸発や漏出による損失を抑える**ため合成繊維のシートと捨て石で保護し、25万立方メートルに及ぶ貯水量を確保できます。

水資源を適切に管理することは、牧畜を営みながらこの地に暮らす何千人もの人々に、社会的な、保健衛生上の、経済的な、大きな利益をもたらすのです。近くの清潔な水を得られることは、しばしば20キロに及ぶ道のりを歩いて不衛生な水を汲みに行くこともある女性や子どもたちの重労働の負担をなくします。貯水に頼れることで、栄養失調や不衛生な飲料水に起因する病気を減らして健康を増進させ、何千頭もの牛、羊、ヤギを養うことができるようになります。点滴灌漑のような技術の導入によって、**メンタリティーの変化**も起き、牧畜業の人々が少なくとも年に二回、野菜を育てられるようになります。最終的に、地元の管理委員会を通して水の一滴まで守ることにより、健康、尊厳、乾燥した環境で長期的に気候に耐える力を備えるための、構造的な基盤を築くことができます。

■東アフリカ管区、ケニア
DBDONコーディネーター Dr. サミュエル・エバレ



振り返りと 分かち合いのために

- 自分たちが原因を作ったのではないにもかかわらず深刻な気候変動に直面する人々に、私たちはどのような義務を負っているだろうか？
- 水を得られることは、なぜ単に生き延びるという問題ではなく、「尊厳」にかかわることなのだろうか？

デジタル時代に ドン・ボスコを伝える



アンドレイ・ムンテアヌ神父, SDB

アンドレイ神父様、インタビューをお願いしたのは、神父様が実に多くのサレジオの情報源にアクセスでき、ボレッティーノ・サレジアノ・オンラインやさまざまなデータベースを管理されているからです。そのことについて、少し詳しく話してくれますか？

ボレッティーノ・サレジアノ・オンライン<http://www.donbosco.press/> は、出版の取り組みをデジタルの世界でも行うため、名誉総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父によって立ち上げられた取り組みです。多言語での活動を通して一つの「声」で語りながら、さまざまな人、さまざまな文化、状況に届くことを目指しています。

これは、メディアの進化によって必要になっています。サレジオの検索エンジンDBinfo、<https://www.donbosco.info/> は、記事を起草したり確認したりするためにサレジオ会の資料に簡単にアクセスする、実的な必要から始まりました。しかしその始めから、会内部の道具としてだけでなく、ドン・ボスコとドン・ボスコのカリスマについてもっと知りたいと願うすべての人に役立つ開かれたものとして考案されたのです。その意味でDBinfoは、ボレッティーノ・サレジアノの使命そのものを広げるのです：サレジオの遺産への意識を高め、探究を深め、広く知らせます。すでに大きな力を持つ道具になっていて、機能においても内容においてもさらに成長するでしょう。

今の時代、情報にアクセスできることが不可欠であると私たちはよくわかっています。もう一つの問題は、どうすれば情報を効果的に用いることができるか、ということです。神父様からの助言はありますか？

この時代、私たちは、新しい機器の使い方を習得するために、少しの時間を「犠牲としてささげる」必要があると思います。実際、それは時間の無駄ではなく、投資です：いったんそれらの使用にあるていど慣れ親しめれば、必要な情報をずっと簡単に見つけることができるでしょう。

それは読み書きを覚えるのに少し似ています；それを覚えるのは、それ自体が目的ではなく、知識を得、コミュニケーションを取り、現実世界をよりよく理解するために、それが欠かせないからです。

このことは、ITの道具全般に当てはまりますが、いわゆる人工知能AIにリンクしているものにはなおさら当てはまります。この技術が、生活に関わるテクノロジーの側面に大きな影響を及ぼすだけでなく、私たちキリスト者の生活にも大きな影響を与えるものになることは、疑いの余地がありません。したがって、どのように使うかを学び、その限界を理解し、受け取る情報を確認することが必要です。それを使うことを拒否することは、ある意味で、新しい世界にあって文盲にとどまることを意味します。

私たちカリエロ11の読者は、宣教の側面に目を向けます。神父様は、ご自身の仕事とその実りを宣教活動と捉えていますか？

キリスト者の生き方は、その本質そのものによって宣教的です。なぜなら私たちは、頂いた光を隠すことはできないからです。ミッションの概念は、キリストを知らない人びとに福音を宣教する務めにあまりにも限定されてしまっていますが、福音を宣教するということは、キリスト者として満ち満ちて生きることにはほかなりません。そして人が頂いたその任務を果たすとき、それは最も明確にミッションと呼ばれるものになるのです。

世界のどこからでも、1日24時間、週7日、アクセスできる記事を発信することにより、そうでなければ出会うことの難しかったはずの人々や共同体に、私たちは奉仕することができます。その意味で、これを宣教活動と呼ぶのはよりふさわしいことだと思います。

私はルーマニアに生まれました。最初にドン・ボスコについて知ったのは神学を勉強していたとき、1934年のドン・ボスコの列聖に立ち会った教区司祭による素晴らしい本を通してでした。ルーマニアの初代のサレジオ会員は皆、そのような方法でドン・ボスコを知りました。サレジオ会は1996年に共産政権が倒れるまで、ルーマニアには来ていなかったからです。私は各地のサレジオ会共同体でさまざまな役目に就き、現在はボレッティーノ・サレジアノ・オンラインBSOLのために働いています。



フ 世界の飲料水

- ・現在、22億人が、家の中での安全な飲み水を得られない。
- ・毎日、5歳以下の子ども800人以上が、不衛生な水に起因する病気で亡くなっている。
- ・最も危機的な状況にある地域は、アフリカのサハラ以南および東南アジアとラテンアメリカの一部。
- ・エチオピアでは、2200万人以上が水不足と飢えのため、生きるために闘っている。
- ・ソマリアでは、雨季の雨不足のため、440万人が極度の飢えに苦しんでいる。

9月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

水

水が大切にされるように
(教皇レオ十四世の祈りの意向)

生きるためになくてはならない資源である水の、公正で、持続可能な管理のために祈りましょう。皆が平等に水を得ることができますように。

(サレジオ会の宣教の祈りの意向)

ケニア

